

共に働く2



～人間関係を大切に～

自動車部品工場×ベトナム人技能実習生

●雇用主(渡邊会長(写真左)と渡邊社長(写真右))とベトナム人スタッフ

轟音が響き、大きな機械が稼働する工場内。ここでは日本人スタッフと共に7人のベトナム人技能実習生が働いています。彼らの先輩格であるヒョウさんとキエンさんに話を聞きました。福江町の免々田川に咲く河津桜が好きというキエンさんと、海での釣りが趣味というヒョウさん。日本を選んだ理由は、日本人は真面目で仕事の技術が高いと聞いたから。それでも来日前は不安だったそうですが、「皆さんが優しく教えてくれて、仕事にも慣れてきました。良い会社に入ったと感じています」と話してくれました。

社長の渡邊さんは、「彼らがないと仕事が回らない。素直で仕事の覚えも早く助かっている」と話します。外国人だからと特別な指導をするのではなく、仕事の指導はみんな同じ。ゴミの捨て方など生活面の指導を

しながら、外国人でも分け隔てなく接しています。

休日に、実習生同士で遠出をすることもあるそうですが、買い物や公共交通機関の利用時など、言葉が分からず外で困ったことがあったら、社長に電話をして助けてもらうそうです。

キエンさんの将来の夢は「日本で学んだことを生かして母国の経済を発展させた」と、ヒョウさんは「服や靴を売るお店を開きたい」とのこと。言葉や生活習慣が違う国で苦労しながらも、夢のために懸命に働く実習生と、彼らに気持ちよく働いてもらおうという渡邊社長。仕事に、そしてお互いの気持ちに、真摯に向き合おうとする姿勢がそこにありました。

実習生たちのこのまちへの印象は、来日前よりも技術面だけでなく人の温かさを感じるものになっているのではないのでしょうか。